第 45 回　埼玉県ミニバスケットボール大会

（平成 26 年度　県民総合体育大会）

開催日	平成 26 年 11 月 3 日（月・祝）

開催場所	行田グリーンアリーナ

試合区分	男子・女子　Ｄブロック決勝戦

開始時刻	15：05

チーム名（淡色）

豊岡グリーンクラブ

（ 東・西・南・北・中 ）地区

チーム名（濃色）

田　島

（ 東・西・南・北・中 ）地区

55

11	１Ｑ	6
13	２Ｑ	5
14	３Ｑ	10
17	４Ｑ	7
	OT１	
	OT２	

28

【見出し】

走って頑張る田島に余裕のある豊岡が勝利！

【戦　評】

１Ｑ開始直後、豊岡#４のドリブルからレイアップ・シュートが決まる。豊岡の１-２-１-１のゾーンプレス・ディフェンスを上手くパスで繋ぐ田島は#６がゴール下のシュートを決める。田島は足を使ったマンツーマン・ディフェンスで相手を苦戦させる。しかし、11 対 6 の豊岡リードで終わる。

２Ｑ、豊岡は#１０がフロアバランスを取りながら#９、#７のポストを使い、パス・ランで合わせて得点を決める。田島は、マンツーマンで#４のパスカットから速攻、また#４のポストプレーで得点していくも、24 対 11 の豊岡リードで前半を終了する。

３Ｑ、豊岡は終始#４がボールをキープしてゲームをコントロールする。さらに#４の１対１のドライブからのジャンプ・シュート、#９、#７が合わせてナイスパスからのシュートで得点を重ねていく。田島はオールコート・マンツーマンで頑張り、#５のドライブからの身体を張ったレイアップ・シュートや#４のポストプレーで得点するも 38 対 21 で豊岡リード。

４Ｑ、田島はオールコート・マンツーマンで足を使ったディフェンスを展開する。オフェンスでは走ってパス・ランで繋ごうとするが、豊岡のナイスディフェンスに苦戦する。田島#４が豊岡#５に抑えられて、終始豊岡がリードを保ち 55 対 28 で試合終了となる。

記入者：　技術委員会　　瀧　　庸　代

埼玉県ミニバスケットボール連盟

第 45 回　埼玉県ミニバスケットボール大会

（平成 26 年度　県民総合体育大会）

開催日	平成 26 年 11 月 3 日（月・祝）

開催場所	行田グリーンアリーナ

試合区分	男子・女子　Ｅブロック決勝戦

開始時刻	15：05

チーム名（淡色）

越谷ファイン

（東・西・南・北・中）地区

チーム名（濃色）

狭山ラビッツ

（東・西・南・北・中）地区

30		47
10	１Ｑ	6
1	２Ｑ	10
6	３Ｑ	13
13	４Ｑ	18
	OT１	
	OT２	

【見出し】

ディフェンスのうまいラビッツ

【戦　評】

先制点はラビッツ#４から始まった。ファインは#７のポストプレーからリバウンドで#４が得点。ラビッツのディフェンスはスローインのところで３-１-１のプレス、ボールが入ると引いてマンツーマンへと変わっていく。ファインはオールコート・マンツーマンからダブルチームに行き、１Ｑはファインのディフェンスが良かった。

２Ｑ、ラビッツのディフェンスにファインが対処できず逆転されてしまう。ラビッツはスクリーンを使ってアウトナンバーを創り、早いパス回しでランニング・ショット。ファインはポストマンにうまくボールが入れられず、得点が止まってしまった。

３Ｑ以降、ラビッツのディフェンスが強くなり、ファインはそのディフェンスに対処できない。徐々に点差が開いていってしまい、12 点差でラビッツリード。

４Ｑ、ファインも早いパスでボールを運ぶが、ラビッツのディフェンスの戻りも早く、うまく得点につなげられない。ファインは 4 分 40 秒でタイムアウトをとり、ディフェンスをプレスに変えたが、ラビッツの速いパス回しにファウルを重ねてしまいフリースローを与える結果となってしまった。ラビッツのディフェンスの勝利となった。

記入者：　技術委員会　　犬　木　伸　雄

埼玉県ミニバスケットボール連盟

第 45 回　埼玉県ミニバスケットボール大会

（平成 26 年度　県民総合体育大会）

開催日	平成 26 年 11 月 3 日（月・祝）

開催場所	行田グリーンアリーナ

試合区分	男子・女子　Ｆブロック決勝戦

開始時刻	15：05

チーム名（淡色）

吹　上

（ 東・西・南・北・中 ）地区

チーム名（濃色）

リベルタ

（ 東・西・南・北・中 ）地区

48			15
10	１Ｑ	7	
14	２Ｑ	3	
14	３Ｑ	3	
10	４Ｑ	2	
	OT１		
	OT２		

【見出し】

決勝戦にふさわしい内容のある好ゲーム

【戦　評】

１Ｑ、リベルタは#５がオープニング・ショットを決めると、すかさず吹上の#１３もシュートで応戦する。吹上は２-２-１からマンツーマン・ディフェンス。リベルタはボックス・ワンで守り、吹上の#４を抑えにかかる。守りの固いチーム同士、吹上の３点リードで終了。

２Ｑ、吹上もリベルタも１Ｑと同じディフェンスをしながら、相手の出方を伺う。しかしながら吹上は２-２-１が機能し始め、#５、#８のシュートで着実に加点。一方リベルタも吹上のディフェンスに怯まず、#４、#７がシュートを試みるが決まらず、吹上が差を 14 点まで広げた。

３Ｑ、吹上は１、２Ｑと同じ守りで入り、リベルタは１-３-１ゾーン・ディフェンスで対抗。徐々に吹上の足が動きだし、相手のミスを誘い、#４、#５のミドルシュートで加点。リベルタも#４、#７が懸命にシュートを打つも、いつものようには決まらず、さらに吹上がリードを 25 点とする。

４Ｑ、リベルタも最後まであきらめることなく懸命にボールを追いかけたが、結局吹上がそのままリードを守り、勝利を手にした。結果的には一方的なスコアになったが、両チームともファウルも少なく、決勝戦にふさわしい内容のある好ゲームであった。

記入者：　技術委員会　長 谷 川　眞　裕

埼玉県ミニバスケットボール連盟